

新潟県における花卉園芸の歴史

新潟県立植物園

倉重祐二

十数年勤めた赤城自然園（群馬県勢多郡赤城村）を離れて、平成12年4月より新潟県立植物園に勤務することになりました。早いもので新潟での生活も今年で5年目を迎えました。

何をきっかけとして新潟県の花卉園芸史の調査をはじめたのか記憶が定かではありませんが、以前からその分野に興味は持っていたようです。そういえば10年ほど前にも、何に使うという目的もなく赤司広楽園など福岡県久留米市のクルメツツジ生産者のカタログを集めて、クルメツツジの品種名やその特徴、品種の作出年代、作出者などをまとめたことがありました。長らくこのようなことは忘れていましたが、新潟に赴任してから長尾草生園などの生産者の協力を仰いで、カタログをはじめとして写真やパンフレット、絵葉書、仕入帳など、何でもかまわず収集をはじめました。新潟県、特に新潟県立植物園の所在する新潟市は古い花卉産地であることは知っていましたが、これほど資料が残っているとは思いませんでした。

長い歴史を有するにもかかわらず、新潟県の花卉園芸の歴史をまとめたものはこれまでにありません。そのため、園芸史調査を植物園の業務のひとつとして位置づけて調査を進め、その結果をとりまとめて平成17年度から「新潟の花卉園芸史」の刊行を予定しています。

さて、現在でも新潟県はチューリップ、ボケ、アザレア、シャクナゲ、ボタンなど全国有数の生産量を誇り、また県内で育成された園芸品種が数多くあります。ここでは、これまでに収集した資料をもととして、江戸から明治の新潟県における花卉園芸史を概説しようと思います。

江戸時代

江戸や大阪などの大都市圏で大いに発展した江戸時代の園芸文化が、新潟県にも移入されたことはあまり知られていません。

長岡藩士であった丸山元純は、医学を修めるために

上京し、帰郷後に寺泊に居を構えました。彼の著した「越後名寄」（宝暦六年1756）は、越後を中心として各地を遍歴して集めた見聞のほか、故実の考証、さらに歴史、自然現象、民俗、社会、地理、本草などが事項ごとにまとめられた当時の百科事典です。

この中に、新潟で栽培されていた園芸植物についての記述があります。花草類には、「牡丹 山野には生えず、上方辺より根こし来る。苑に植て賞愛す。牡丹の接木する事近世之を初。」「芍薬 弥彦山などにある。苑に植る。艶麗なる者は方々より将来し、其数之を知るべからず。」「菊 近世、好花数品、甚多し。花園に植、樹盆に栽て遊ぶ。」などの他、撫子、燕子花、花菖蒲、向日葵、薔薇などが取り上げられています。

しかしながら、これらの園芸植物が県内で独自に改良されることも、また栽培が明治時代まで続くこともなかったようです。

新潟は米作農家が多数でしたが、江戸時代末期になると、禁止されていた副業が逆に奨励されたようです。この様子が「両組産業開物之巻」（慶応二年1866）に見ることができます。編著者である小泉蒼軒は、幕末期の地理学者として知られる市之瀬新田（現新潟市）の名主で、本書には新潟九カ村及び小須戸三十カ町村の立地条件や産物、農家戸数と、そのうち余業に携る者の名前、業種が記されています。

ここには、農隙余業品目として、苗木仕立、植木師、薬草薬木仕立芍薬茴香、草花商が上げられ、現在でも花卉生産の盛んな地域である新潟市出戸は「諸木苗木仕立方便利に相聞候に付、杉・からたちを始、其外必用に可相成果木之苗。草花等も取交、追々仕立方に取懸申候処、可也利潤も有之由、追々気込候勢に相見申候」、四興野・蕨曾根は「居屋敷畑へ芍薬茴香等之薬草植立」、また浦興野は「草花作り（五名）」と記されています。このように江戸末期には、新潟・小須戸地域で明治以降に続く花卉園芸産地としての基盤ができつつあったようです。

明治時代

大政奉還が布告され江戸時代が終わり、時代が明治とかわると他の欧米の文物と同じく洋種花卉が輸入されはじめました。当初は外国人商人によって、日本に在留する外国人のために洋蘭や球根が輸入されたようですが、明治20年代末から植物の輸出入を手広く行っていた横浜植木株式会社などの国内種苗商によって日本人向けの輸入が本格化しました。

その後、明治36年頃から洋種花卉の栽培が流行しはじめ、高価であった西洋草花も縁日の植木屋や呼売の草花屋によって安価に販売されるようになりました。明治35年から40年頃までに今日見ることのできる洋種花卉の大半が導入されたと言われ、この中でニオイスマシ、アナモネ、チューリップ、ヒアシンズ、ランタンキュラス、スイートピー、シネリリア、プリムラ、ダリアなどの草花や球根植物が人気を博しました。

さて、新潟県における明治時代の花卉生産（一部は趣味の栽培）の状況を「新潟県園芸要鑑」（新潟県農会 明治44年）に見ると、北蒲原郡佐々木村（現新潟市）の夏菊、古志郡山通村（現長岡市）の切花、中頸城郡高田町（現上越市）四の辻区瀬尾原始氏の菊芸、中蒲原郡石山村竹尾（現新潟市）の草花、西蒲原郡味方村の花弁、北蒲原郡濁川村（現新潟市）の近藤賢之助の朝顔、三島郡来迎寺村（現越路町）水島義郎氏の花弁、三島郡深才村大字大島（現長岡市）長谷川玄三郎氏の牡丹が上げられています。

これらのうち石山村竹尾や味方村では明治半ばからグラジオラス、カンナ、フクシヤ、ゼラニウム、チューリップなどの西洋花卉が生産されていたことが記されています。しかしながら、これらの産地での西洋花卉の生産は、大正から昭和にと時代が進むにしたがい衰退していきました。

理由は分かりませんが、発行当時には盛んに花卉生産が行われていた小合村（現新潟市）についての記述が「新潟県園芸要鑑」には見られませんが、「越後の花」（新潟県花卉球根協会 昭和5年）及び「小合村園芸史」（日本牡丹協会 昭和30年）から、当時の小合村での花卉生産の状況を見てみましょう。

明治初期の小合村では、キンカン、ミカン、牡丹、芍薬、五葉松、ボケ等が小規模に生産されていたにすぎませんでしたが、明治中期から大正時代にかけて花卉生産は大きく発展しました。このきっかけをつくつ

た植物がボタン、ヤブコウジ、チューリップやアザレア、シャクナゲなどをはじめとする西洋花卉でした。

ボタン

小合村のボタン栽培は、万延年間（1860～1861年）にまで遡るとされています。明治初期に栽培されていたボタンは数品種を数えるに過ぎませんでしたが、明治20年、茨曾根村（現白根市）の関根省吾が、大阪府池田市や兵庫県宝塚市からボタンの優良品種二百数十種を導入しました。これらのボタンが小合村や小須戸町の生産者に分譲された結果、ボタン栽培が本格化したといわれています。大阪や兵庫は江戸時代から続くボタン生産の本場であり、明治時代に数多くの園芸品種がつけられました。

日本におけるボタンの増殖は、江戸時代よりボタンの台木にボタンの穂木を接ぐ方法で行われていたが、台木の生産に時間がかかったため、最も生産量の多かった農家でも1年に千本の接木を行うのがせいぜいでした。

しかし、明治35年頃に小合村の江川啓作と四柳徳次郎がボタンをシャクヤクの台木に接ぐことに成功しました。草本植物であるシャクヤクはボタンに比べて短時間で実生台木をつくることのできるため、小合村ではこれまでの数倍の苗木の生産が可能となったのです。また、明治末期から小合村長尾草生園の長尾次太郎（初代）や荻川村（現新潟市）の田中新左衛門によって、ボタンの新品種が発表されはじめました。明治41年には村内で作出された新品種を含めて112品種のボタンが生産されていた記録があり、このうち7品種は新潟市や小須戸町の生産者や趣味家が作出したものです。この時代に確立した繁殖技術と新品種の開発が、新潟県のボタンの大産地化に大きく貢献したのです。



「Paeonia Moutan A collection of 50 choice varieties」

横浜植木株式会社発行（大正4年）に掲載された田中新左衛門作出の新潟ボタン「御所桜」

ヤブコウジ

江戸時代後期、紫金牛（ヤブコウジ）は葉に斑の入る変りものが江戸の好事家の間で流行しましたが、明治20年頃から小合村を中心に流行が再燃しはじめました。27年には日清戦争に勝利したことで好景気が訪れるだろうとの予測からヤブコウジの売買が県内で過熱し、投機の対象として生産者や趣味家だけでなく一般市民も巻き込んでいきました。最も価格が高騰した明治29年のヤブコウジの価格は、米価から換算すると、一番の人気品種「日之司」の3年生以上の株が1,000万～1,300万円でした。中には1鉢2,000万円で購入されたことも記録されています。

この間に、他県にもブームは波及し、新潟県においても倒産者や家財を傾ける者も多くありました。当時の園芸雑誌に取り上げられたヤブコウジの記事には、「関西各地至る所愛培家を続出し迎いて中国四国九州の辺僻に及ぼせり...」、「紫金牛の流行に就て一言す流行物即ち人気物は非常の盛衰を来すは必ず衰うの理にして...」（日本園芸会雑誌 明治28年）「種類は百種に至る（中略）明治二十五年頃より越後地方に流行し終に全国に及へり七福神、干綱、日の司の類は展芽一鉢数百円の売買在り...」（日本園芸会雑誌 明治33年）など、流行の大きさや売買への警告の内容が見えます。このような事態を憂慮した新潟県は、明治29年に「ヤブコウジの売買に狂奔するために、農家は田畑を荒し、実業家は商売を省みないので注意すべし」との内容の知事諭告を発しました。しかし、一向に取引は止まなかったため、翌年には新潟県から「紫金牛売買取締規制」が公布されました。これによって売買は鑑札によって許可され、取引場所の指定や売買内容の届出が義務づけられました。しかし、これを不満とした有力者が県当局に自由売買の嘆願をした結果、1年後に「取締規則」は廃止されました。



紫金牛取締鑑札



明治41年、小合村でのヤブコウジ栽培の様子

この後も、ヤブコウジは人気品種の変遷を経ながらも盛んに売買が行われたようで、明治末期には小合村で100品種のヤブコウジが栽培されていた記録があります。このようなヤブコウジの狂乱を経験した花卉生産者は、植物が投機の対象になるほどの利益を生む可能性があるという意識を持ったと考えられます。

西洋花卉

新潟県における最初の通信販売カタログ「長尾草生園 営業目録 第壹號」（明治41年）には、ボタンやシャクヤク、百合、椿、槭樹、茶梅、躑躅、保内産霜降松、盆栽などと共に、梨、桃、リンゴ、柿、実成梅、李杏、桑、西洋梨などの果樹や、薔薇、チュリブ、アネモネ、クロッカス、ヒアシンズ、グラジヲラス、カンナ、ゼレニウム、サボテンなどの西洋花卉が掲載されています。

小合村では明治末から大正はじめに移入されたチュリブやアザレア、西洋シャクナゲなどの生産が本格化し、日本を代表する花卉産地へと変貌を遂げていきました。特にチュリブは、比較的気温が低く晴天が多い春から夏までの新潟の気候が球根を充実させるのに適していたため、大正時代に小合村で日本初の商業生産がはじまり、ヤブコウジにかわる高い利益を生む花卉として、県内に栽培が広がっていったのです。

このように新潟県の明治における花卉園芸時代は、1)西洋草花・球根の移入により、新潟県の花卉園芸産業の基礎が形成され、都市近郊で発展しはじめた、2)新潟で古くから栽培されたシャクヤク・ボタンも、技術革新や品種改良により新潟を代表する花卉となる条件が整った、3)ヤブコウジの流行により、「花はもうかる」という意識が定着した、とまとめることができると思います。

吉田千秋とチューリップ 定説よりも早まった新潟県での商業栽培

最後に園芸史調査での最近の成果について、拙著の宣伝も兼ねて少々述べたいと思います。

琵琶湖周航の歌の原曲「ひつじぐさ」の訳詞作曲者として知られる吉田千秋は、歴史地理学の泰斗、大日本地名辞書を著した吉田東伍博士の次男として、現在の新津市に生まれ、大正8年2月24歳で夭逝しました。吉田千秋が中心となって兄弟や友人とつくっていたAKEBONOという回覧誌を調査する機会があり、この中に新潟県のチューリップ生産に関する重要な情報が含まれていることが分かりました。

新潟県でのチューリップ栽培は明治37年頃に来迎寺村（現越路町）の水島義郎によってはじめて成功しましたが、これは趣味で行なわれたものでした。定説では、その後大正7年に小合村の小田喜平太が同村へ最初に導入し、翌8年に数万球を輸入して、日本ではじめての商業生産がはじまったとされています。

しかしながら、先述したAKEBONOに掲載されていた日々の園芸作業を綴った「園芸日誌」には、大正5年から7年の間に小合村と小須戸町の花生産者から、70品種ものチューリップを購入したことが記録されていました。このことから、定説よりも早い大正5年には小合村や小須戸町でチューリップの商業生産が行われていたことは明らかです。大正6年5月の記録には「至る所の花戸（かこ）、ハイアシンス、早咲のテウリップ、アネモネなど盛りなり」とあり、ある程度の栽培規模だったとも考えられます。

明治41年に発行された「長尾草生園 営業目録 第壹號



「長尾草生園 営業目録 第壹號」

明治41年に発行された新潟ではじめての通信販売カタログ



AKEBONO 15号（大正6年5月）に描かれた吉田千秋が自宅で栽培したチューリップ5品種

號」にはチューリップが掲載されていることから、小合村にチューリップが導入されたのはこれ以前だったと思われます。

以上から、大正8年の小田喜平太による商業生産は「小合村には明治41年以前にチューリップが移入され、明治末期から大正初期に日本初の商業生産がはじめられた。その後大正8年に小田喜平太が大規模なチューリップの球根生産を開始した。」とするのが良いと思います。チューリップの商業生産の時期については、千秋の「園芸日誌」の内容を傍証する数々の資料も発見されています。

「吉田千秋研究 吉田千秋と植物」のご案内

吉田千秋の残した植物や園芸に関する資料をまとめ「吉田千秋研究 吉田千秋と植物」を吉田文庫から出版しました。吉田千秋の植物に対する興味と知識、また明治から大正にかけての花卉園芸の流行や小合村の花生産について検証したものです。市販されておりませんので、ご希望の方は吉田文庫までお問い合わせください。頒価は800円で、別途送料がかかります。詳しくは吉田文庫 〒956-0004 新潟県新津市大鹿624 電話・ファックス 0250-23-7070 までお問い合わせください。